

Aqurex 水性オイルステイン

仕 様 書

Stain & Top Coat | 001

和信化学工業株式会社

年 月 日

# Aquirex 水性オイルステイン

Stain & Top Coat | 001

Aquirex 水性オイルステインは、木目を活かし鮮やかな着色塗膜を形成する、VOC1%未満の水性顔料着色塗料です。

透明性の高い樹脂と微粒子顔料の使用により、耐久性のある塗膜が屋内木部を保護し、濡れ性に優れた、オイルフィニッシュ風の仕上がりになります。

水性塗料でありながら、油性着色塗料のような優れた作業性を持ち、塗りムラになりにくく、使いやすい着色兼下地兼仕上げ剤です。

## § ラインナップ

OS-1 ブラック	OS-2 オレンジ	OS-3 チーク
OS-4 マホガニー	OS-5 チョコレート	OS-6 グリーン
OS-7 オリーブ	OS-8 メープル	OS-9 オーク
OS-10 ブラウン	OS-11 クリヤー	OS-12 ホワイト
OS-13 ナチュラル	OS-14 レッド	OS-15 エロー
OS-16 ブルー		計 16 色

## § ホルムアルデヒド放散等級

F (日本塗料工業会登録 W01299)

## § 特長

水性タイプの為、火気の心配がありません。

臭気が少なく作業中でも気になりません。

厚生労働省指定の毒物・劇物、消防法の危険物には該当しません。

(キシレン、トルエン、エチルベンゼン、ホルムアルデヒドを使用していません。)

揮発性有機化合物(VOC)の使用を限りなく少なくした「低VOC塗料」。

作業性は油性着色塗料並みに優れ、刷毛が固まりにくくなっています。

木材への浸透性が良く、導管への流れ込みも良好です。

透明性が高く、鮮明でオイルフィニッシュ風の仕上がりになります。

防カビを配合しております。

VOC1%シリーズとして

中塗塗料 = Aquirex サンディング

上塗塗料 = Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ

= Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ・2液タイプ をご用意しております。

国土交通省「改正建築基準法」	適合
厚生労働省「室内空気汚染に係るガイドライン」	適合
文部科学省「学校環境衛生基準」	適合
東京都環境局「子どもガイドライン」	適合
「東京都環境物品等調達方針(公共工事)」*1	適合

\*1 東京都が定める「環境物品等調達方針(公共工事)」には、その他環境負荷の低減に寄与するものとして、低VOC塗料と記載されており、塗料を使用する場合は、その使用を推進するとなっている。

低VOC塗料とは・・・鉛・水銀・カドミウム、六価クロム等の有害金属類を添加してしない塗料であって、VOC含有量1%以下の水性塗料であること。

(東京都環境物品等調達方針(公共工事)から抜粋)

## § 用途

階段、手摺り、内壁、内装ドア、ドア枠、廻り縁、巾木、カウンター、収納扉などのあらゆる内装木部や天板などの家具への着色塗料

## § 使用方法

1. 本品は原液のまま塗装できます。淡色にしたい場合には、OS-11 クリヤーで希釈して下さい。水で希釈することもできますが、色ムラの発生・塗膜の肉持ち・光沢が落ちますのでご注意下さい。
2. 塗膜の摩耗・色取れを気にする場合には、Aqrex 水性オイルステイン 各色を着色後、その上に上塗塗料を塗装する事で更に強靱な膜を形成できます。

## § 塗料性状

外 観	製品名ごと 各色	目 視
粘 度	12±2 秒	4フォードカップ / 25
密 度	1.05 ~ 1.08 ± 0.02	ウェイトカップ / 25
不揮発分	13.0 ~ 19.0%	計算値
凍結安定性	異常なし	-15 ~ 室温 凍結解凍 5サイクル
保管安定性	異常なし	50 1ヶ月

## § 乾燥性目安

標準塗布量 40 ~ 60g/m<sup>2</sup> 気温/湿度 20 /60%  
塗り重ね時間 3 時間 ~ 4 時間 (ナラ材合板塗装)

条件によって乾燥状況は変わりますので目安として下さい。

## § 塗膜性能

カバ合板 2 回塗り 7 日間養生

項 目	結 果	備 考
耐酸性		5%酢酸水 スポットテスト 24 時間
耐アルカリ性	× 木材黒変	5%炭酸ナトリウム水 スポットテスト 24 時間
耐水性		水道水 スポットテスト 24 時間
耐アルコール性		60%エタノール水 スポットテスト 24 時間
耐溶剤性	- ×	塗料用うすめ液 スポットテスト 24 時間 キシレン スポットテスト 24 時間 ラッカーうすめ液 スポットテスト 24 時間
耐マジック性	黒 × 赤 ×	24 時間後ベンジン拭き取り
耐クレヨン性	黒 - 赤 -	24 時間後ベンジン拭き取り
耐インキ性	黒 × 赤 ×	スポットテスト 24 時間
耐湿熱性		300 cc沸騰水入りピーカー 1 時間放置

## § 各種塗料との密着性

塗料名	研磨なし
Aquirex ウッドシーラー	
Aquirex サンディング	
Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ	
Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ・2液タイプ	
Aquirex フロア クリヤー	×
Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ	

Aquirex 水性オイルステイン 各色を塗布(1回塗り又は2回塗り)翌日、各種上塗塗料の塗布(拭き取りや研磨なし) カバ合板 1週間後クロスカット後セロテープ剥離

これは実験室におけるデータであり、実際には素材、塗布量、塗り重ねる時間、その他の条件で変わることがありますので参考として頂き、事前のチェックをお勧めします。

## § 塗装工程

### 1. ステイン仕上げ(例)

工 程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備 考
素地調整	#150 サンドペーパー			
着色 1	Aquirex 水性オイルステイン 各色	40 ~ 60g/m <sup>2</sup>	3 ~ 4 時間	刷毛
着色 2	同 上	40 ~ 60g/m <sup>2</sup>	一晩養生	刷毛

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。また、乾燥時間は塗装状況により変わります。あくまでも目安として下さい。

ケバ取りが必要な場合には、色落ちしない程度に#320 サンドペーパーで研磨して下さい。色が取れた場合には、2回目塗装前にタッチアップして下さい。

## 2. 耐久性重視塗膜仕上げ(例)

工 程	使用塗料	塗布量	乾燥時間	備 考
素地調整	#150 サンドペーパー			
着 色	Aquirex 水性オイルステイン 各色	40～60g/m <sup>2</sup>	3～4時間	刷毛
上塗り1	Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ	80～100g/m <sup>2</sup>	2～4時間	刷毛
研 磨	#320 サンドペーパー			
上塗り2	Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ	80～100g/m <sup>2</sup>	一晩養生	刷毛

床や良く触れる場所への塗装など、色落ちを気にする場合にはこの工程をお薦めします。

塗布量は素材の吸い込み具合により大きく変わります。また、乾燥時間は塗装状況により変わりますので目安として下さい。

色が薄い場合にはステインを2回塗りして下さい。

ただし、極端な厚塗りは塗膜性能の低下につながりますので避けて下さい。

Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ以外にも用途に応じた上塗塗料をご用意しております。

Aquirex 木部用ウレタン 各ツヤ・2液タイプ

Aquirex フロア クリヤー・2液タイプ

下塗には、肉持ち性、研磨性に優れた

Aquirex サンディング

を使用することも出来ます。

## § 使用上の注意

使用前には必ず容器を良く振って中身を均一にしてからご使用下さい。

木材は種類によって発色が変わります。また、同じ種類でも吸い込み方で発色が変わりますので、必ず試し塗りを行って下さい。

ヤニやアク等樹液成分を多く含む木材や防腐処理、不燃処理など特殊加工された木材へ本品(特にホワイト色、淡彩色系)を塗装する場合、樹液成分の染み出しや加工に使われた薬剤などが原因で塗膜が変色する場合がありますので必ず試し塗りを行って下さい。

5 以下での塗装や、多湿時の塗装は乾燥時間が極端に遅れるだけでなく、仕上がりが悪くなり、求める塗膜性能が出にくくなる場合がありますので、避けて下さい。(5 以下で作業を行う場合には、Aqrex 専用凍結防止剤をお使い下さい。)

本品は水性塗料でありますので低温時には凍結します。凍結させますと外観が正常な状態に戻らなくなる可能性がある他、外観に問題がなくても塗膜性能が極端に低下している場合があります。0 以下の場所での保管を避け、凍結させないように注意して下さい。また、しっかりとフタをし、直射日光を避けて保管して下さい。

刷毛などの塗装器具の洗浄は、乾かぬうちに水でよく洗って下さい。乾いてしまうと水では落ちませんので、ご注意下さい。

作業中や養生中はできるだけ換気を良くして下さい。  
また、上塗塗料の養生時にはゴミの付着に注意して下さい。

取り扱い中は、塗料ができるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具などを着用して下さい。皮膚などに付着した場合には、多量の石鹼水で洗い落とし、痛みまたは外見に変化があるときには、医師の診察を受けて下さい。

目に入った場合には多量の水で洗い、直ちに医師の診察を受けて下さい。  
誤って飲み込んだ場合も、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。

子供の手の届かないところに保管して下さい。

残塗料及び洗浄廃液は、河川・下水などに捨てず、中身を使いきってから廃棄して下さい。

本来の用途以外には使用しないで下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。